



Title	集落の形態
Author(s)	森, 朋子
Citation	アイヌの伝統を基層にした多文化な景観 : 北海道平取地域の文化的景観に関する論説集, 28-29
Issue Date	2024-03-29
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/92873
Type	other
File Information	ronshu_biratori (16).pdf



集落の形態

森朋子
札幌市立大学デザイン学部 准教授

コタン

コタンは、アイヌ語で「むら」を示します。アイヌ民族は狩猟採集を生業とし、その居住地をコタンと呼び¹、アイヌ語には国や郡といった社会の単位組織を指す言葉がないことから、アイヌ民族にとってコタンが唯一の社会単位とされています。すなわちコタンは、日本語の「むら」と同様に社会組織の単位であり居住地も意味しています。

一方、コタンは「アイヌ文化の中でこの社会組織に関する分野は一番研究が遅れてきたといつてよい」²と言われ、その空間的解明は、地図資料を頼りに手探りで見ていく必要があります。

コタンの変遷

高倉は、コタンをその成因により、自然部落（近世以前の狩猟採集生活を基礎に血族団体にて水辺に自然発生した集落）、強制部落（和人による支配・干渉を受け2つ以上の血縁で組成された集落）、保護部落（1899年北海道旧土人保護法（以下保護法）により給与された給与地内の集落）に分類して時代的変遷を示しました（表1）³。正確な図面をもとに分析ができるのは給与地図以降であり、保護部落（以降、アイヌ集落）からと言えます。

表1 コタンの変遷（高倉³参照、集落平面⁴加えて筆者作成）

		自然部落	強制部落	保護部落（「アイヌ集落」←筆者）
発生要因		自然発生	和人支配・干渉による	勸農方針にて移転・合併
集落社会	社会組織	血族団体	2以上血縁混在で複雑化	血縁遠い異分子と和人
	組織の長	族長	乙名（和人より任命）	個人的実力・経済力による
集落立地		交通に便利な水辺、特に川や沼岸の高所	海岸（和人出張所、会所元） +川沿（本村）	給与地（「従来開墾地」もしくは「殖民地の区画内」）
建物配置		「でたらめに密集」、水源の山々に棲む神に捧げる幣所に面す窓が家の正座に同方向を向く	記載無	「家は相変わらず密集的」、彼等の習性による所も多いらしい
集落平面		狩猟採集民「線形集落（注8）」（「コタン」←筆者）→→→→		—

アイヌ集落の形態

居住地は飲み水が得られた洪水の恐れがない乾燥地で、川や沢の合流点以外に場所が選ばれました。また、集落内の住居配列は、宗教的信仰を基にチセ長軸上の「神窓」が川の源流方向に向くよう配置され、狩猟採集民集落の「線形集落」に分類されます⁴。高倉も自然部落に同じ指摘をし、さらに建物が「出鱈目に密集」した要因を「通路に縛られない」こととします³。

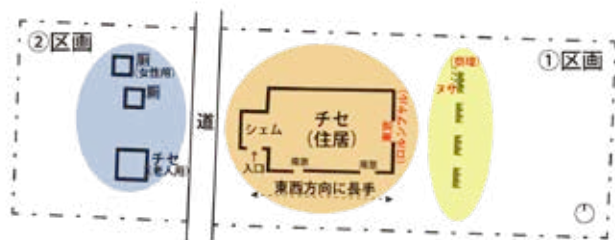


図1 各居住地(一戸あたり)の家屋配置と給与区画(基本型)



図2 二風谷村の土地利用・区画形状分類別分析図

一方アイヌ集落は、鷹部屋がチセは道路の東側に同型（間口四間・奥行三間位）で何れも祭壇が並び道路西側に便所が並ぶ往時の面影を「得異な景観」⁵と表した通り、同型住居とその構成・配置がアイヌ集落の特徴であったことを示唆しています。給与地図に参照すると、各居住地の家屋は道路を挟む一対2区画に信仰方向に配置（図1）され、集落として見ると、道沿いに居住地が連なる「列状路村」の集住形式で「沿道型」を示します（図2）。

アイヌ集落は、信仰方向にチセの長軸を向けた居住空間構成を継承してその特徴を示す一方、保護法によるアイヌ民族への勧農施策によって、土地生産性を重視した農地確保と集住の方針に影響され、沙流川流域地域を南北に貫く道をチセ・便所間に挟む「列状路村」形式にて次第に集住し、「沿道型」の平面形態を成した結果、各居住地は道を挟む「一対2区画」を基本とする給与区画となったと考えられます。

本稿は拙稿（森朋子：「給与地図」に見るアイヌ集落の居住地形成原理に関する考察、二風谷村における各居住地の特性と集落社会の関係性に着目して、日本建築学会計画系論文集,88(809),pp.2151-2159,2023.7)を一部抜粋したものです。

補注

- 1 コタンは、家1軒でも仮住居の場所でもコタンという。知里真志保：地名アイヌ語小辞典（復刻版）、北海道出版企画センター、P.50,1984（初版1956年）
- 2 アイヌ民族博物館監修：増補・改訂アイヌ文化の基礎知識、P.180、草風館、2018 アイヌ民族の「むらのしくみ」に関し、いわゆる一般的な説明から。
- 3 高倉新一郎「アイヌ部落の変遷」、日本社会学会年報、7,PP.130-163,1940
- 4 渡辺仁：狩猟採集民集落平面形の体系的分類、社会生態学的・進化的研究、国立民族学博物館研究報告、11(2),PP.489-541,1986 渡辺は、狩猟採集民と非近代的農耕民の住居の平面的配列パターンにより、集落平面を5類（群団形、線形、四角形、沿道型、格子形）に分類し、狩猟採集民としてのアイヌ民族の集落を「線形集落」に位置付けた。
- 5 鷹部屋福平：アイヌ住居の研究（続き）、日高平取方面に於ける地方性、北方文化研究報告、5,PP.103-142,1941 のP.107に第一図「日高国沙流郡二風谷村旧土人給与地 明治35年4月調査」手書きの図面が掲載されている。